

# 近隣校研修レポート

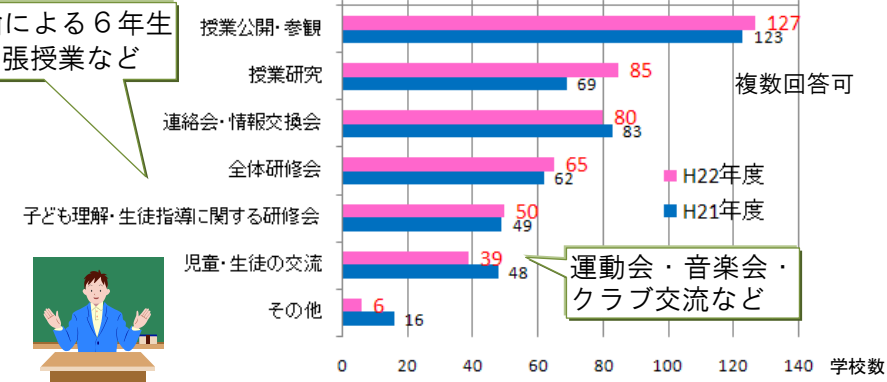
## 平成22年度 近隣校研修のまとめ

今回の近隣校研修レポートでは、各校から提出していただいた「近隣校研修実施報告書」を基に、平成22年度の近隣校研修で実施した研修内容とその成果や課題について紹介します。

### 近隣校で実施した研修内容

- \*夏の授業案検討、秋の授業研
- \*新学習指導要領に対応した教材研究や授業研究
- \*幼・小・中での共通課題とその手だてについて協議
- \*小中学校別の教科研修
- \*9年間の学びの中での道徳授業
- \*各校で授業を公開する「授業研究会」
- \*合同研修会にて「コーチング」
- \*授業参観を中心に一人一回は近隣校の訪問、自校の教育活動に生かす
- \*夏休みに生徒指導研修会を実施
- \*指導主事や教科リーダーを招いての研修など各地区で様々な研修が行われました。

中学校教諭による6年生への出前出張授業など



平成21年度に比べ、「授業研究」をテーマとする研修が増加！

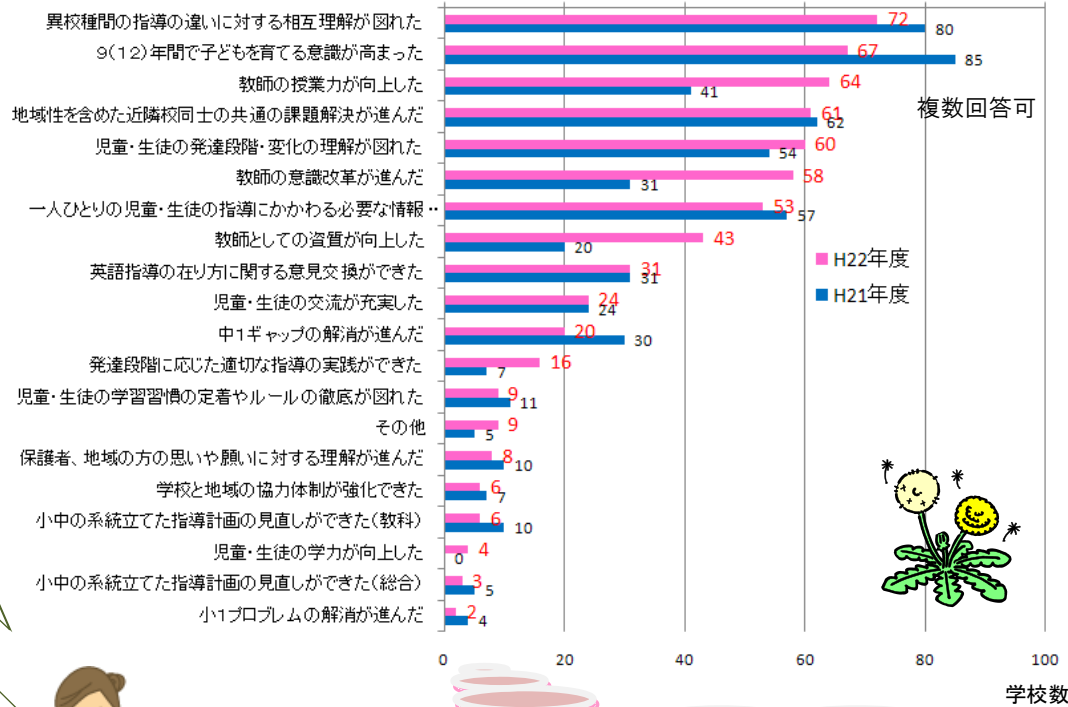
### H22年度 近隣校研修の成果

#### 学校からいただいた声

教科の特性を生かした授業が展開され、新学習指導要領についての研修が深まった。(葵区・小学校)

近隣校同士の共通の課題がわかり、解決のための第一歩を踏み出した。(駿河区・中学校)

学習や生活面での指導を系統立てていこうとする意識改革が進んだことは、大変有意義であった。(清水区・中学校)



平成21年度に比べ、「授業力向上」「教師の意識改革が進んだ」が増加！

- 平成22年度の成果は異校種間の指導の違いに対する相互理解が図れたり、9年間で子どもを育てる意識が高まったりしたという声上位を占めました。
- 近隣校研修は、学区の小中学校の連携だけでなく、目的に応じた取り組みを考えることで、幅広い成果があらわれることがグラフに表れています。
- 9年間の学びの連続性を、授業研究を通して考えようとする地区が増えてきました。

教育センターのホームページにも各地区で取材した様子を掲載しています。課題研究室的近隣校研修レポートをぜひご覧下さい。



センターかわら版 No. 1 静岡市教育センター H23. 4. 8

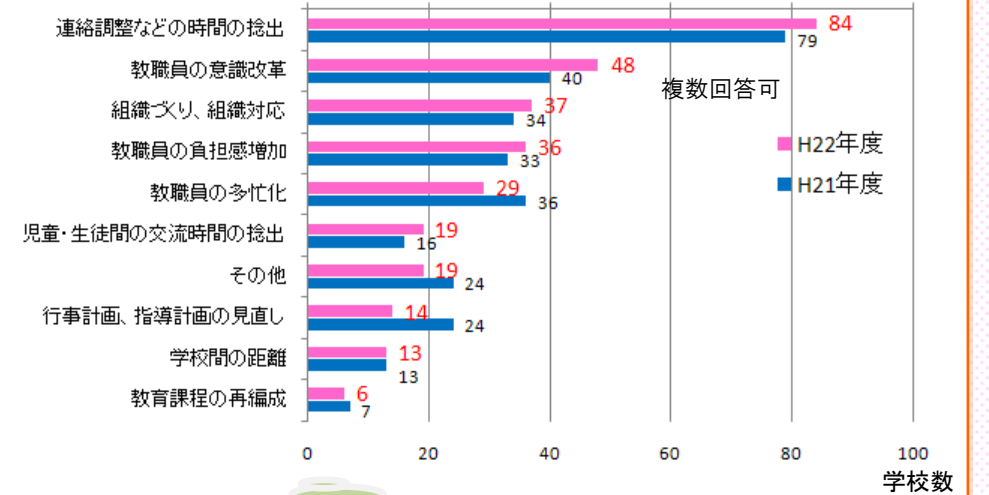
### H22年度 近隣校研修の課題

#### 学校からいただいた声

全職員が参加する近隣校研修は行われておらず、中学校区の学校の公開授業に希望制で参加する形のため、小学校間はもちろん、小中学校とのつながりも希薄である。(葵区・小学校)

事前研の時間の捻出、近隣校共通の課題についての意思統一の必要性がある。(駿河区・中学校)

目的や視点がはっきりしなかったために、課題や成果がとらえにくかった。(清水区・中学校)



平成21年度と同様に、「連絡調整などの時間の捻出」が最大の課題

▲平成21年度と変わらず、課題として最も多くの学校があげていたのが、「連絡調整や時間の捻出」でした。各校で公開授業のお知らせを関係校に送付し合い、授業参観を呼びかけ合いましたが、連絡が直前であったり、自校の授業等の調整がつかなくなったり...という反省点が多く見られました。

⇒忙しい中でも、年度当初に担当者が集まって計画をすることが、スムーズな運営につながったという報告が寄せられています。逆に連絡調整を担当学年に任せたり、直前まで計画が決まらなかったりすると負担感が増すようです。

▲気軽に参観し合うことを目的に公開授業の案内を出し合う形で行ったが、授業を自習にしてまで行けない。⇒気軽にとはいえ、なかなか気軽に参加できないために、負担感を招くことにつながったようです。一方、全員が一堂に会して行った研修は、一見大きな負担を強いるようですが、「充実した研修につながった」という報告を多数いただきました。

多くの学校でこのような悩みが...

❖「9年間で子どもを育てることを目的とした研修」と「教師の授業力や教科の専門性を高める研修」を別々に行うべきかどうか考えている。  
❖次年度も小中別の教科研を続けて良いのか、以前の中学校区での実践の方が良いのか迷っている。

まずは、現実的に時間がない中で、時間の生み出しに苦勞しながら、市内全ての学校が近隣校研修に真摯に取り組み始めたことに、深く敬意を表したいと思います。

さて、私たち教員にとって「授業力や教科指導力の向上を図ること」と「小中の連携を図ること」は、どちらも大切なことです。しかし、限られた時間の中で、どのような目的の研修を行うかは、校種や学校規模、あるいは学校のおかれた環境等によって、そのニーズに違いが見られます。

近隣校研修におけるこのような課題は、安直に「教科指導力の向上か、小中連携か」と二者択一の問題としておきかえられるものではないと考えます。なぜなら、教科指導力の向上をつきつめていくと「学校段階間の円滑な接続を踏まえた子どもの発達段階に応じた教育」(中教審答申H20.1)につながるからです。

近隣校研修の特徴は、教員のニーズに応じた幅広い研修が可能である点です。ですが、どのような研修を進めていくにせよ、1年のうち一度は「義務教育9年間の子どもの学びの連続性」と「地域の子どもの特性」を大切にしたい取り組みが位置付けられている、そんな研修であってほしいと願っています。